

Q&A

多発血管増殖性病変をともない急速な経過を呈した肝不全の1例

三 田 純 也 伊 藤 心 二 戸 島 剛 男¹⁾
牛 島 泰 宏 石 神 康 生²⁾ 吉 住 朋 晴¹⁾

【問 題】

症例：70歳代，女性。

主訴：なし。

現病歴：生来健康で特記すべき既往歴なし。健康診断にて多発肝腫瘍を指摘され前医を受診した。造影CT検査にて肝両葉に多発性の血管増殖性病変を認め、経過観察の方針となった。その後、約5カ月の経過で肝機能障害の急速な進行および腹水貯留を認めたため、肝移植適応を含めた精査治療目的に当科紹介となった。

既往歴：白内障。

内服歴：なし。

生活歴：喫煙 なし，飲酒 なし。

来院時現症：身長 157cm，体重 59kg，腹部平坦，軟，圧痛なし。

血液検査所見：WBC 7240/ μ L，RBC 333万/ μ L，Hb 8.3g/dL，Plt 6.7万/ μ L，PT 13.8%，PT-INR 3.68，TP 5.2mg/dL，Alb 2.6g/dL，AST 280U/L，ALT 143U/L，LDH 716U/L， γ -GTP 113U/L，TB 8.7mg/dL，Cre 0.88mg/dL，BUN 31.4mg/dL，CRP 1.0mg/dL，HBs抗原陰性，HBs抗体陰性，HBc抗体陰性，HCV抗体陰性，抗核抗体陰性，抗ミトコンドリア抗体陰性，抗Sm抗体陰性，抗胃壁抗体陰性。

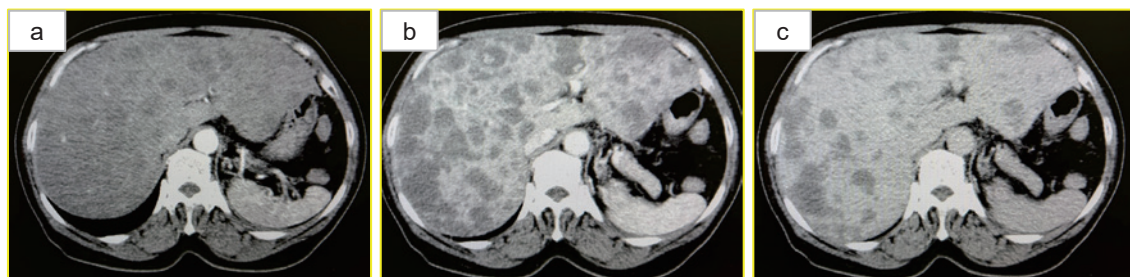


Figure 1. 腹部造影CT検査：(a) 動脈相，(b) 門脈相，(c) 遅延相。肝内のほぼ全体を占拠・置換するように多発結節を認め、肝全体は腫大している。結節は遅延相にかけて遷延性の増強が見られるが、結節間の境界が不明瞭なものもあり、肝は全体として不均一に増強されている。

1) 九州大学大学院消化器・総合外科 2) 九州大学大学院臨床放射線科学分野

A case of rapidly progressive liver failure with multiple vascular proliferative lesions

Junya MITA, Shinji ITOH, Takeo TOSHIMA¹⁾, Yasuhiro USHIJIMA, Kousei ISHIGAMI²⁾ and Tomoharu YOSHIZUMI¹⁾

1) Department of Surgery and Science, Graduate School of Medical Sciences, Kyushu University, 2) Department of Clinical Radiology, Graduate School of Medical Sciences, Kyushu University

Corresponding author：三田 純也 (mita.junya.403@s.kyushu-u.ac.jp)

画像所見：腹部造影CT検査 (Figure 1)：肝内のほぼ全体を占拠・置換するように多発結節を認め、肝全体は腫大している。結節は遅延相にかけて遷延性の増強が見られるが、結節間の境界が不明瞭なものもあり、肝は全体として不均一に増強

されている。肝外に悪性腫瘍を疑う所見は認めなかった。

本症例で考えられる診断は何か？